

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表 令和 3年 3月 20日

事業所名 キッズガーデンSeeds

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		児童生徒が色々な場で過ごせるように活動内容などを工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	4	1			体調を崩した職員が出た時に他の職員の負担が多い。送迎時間の人数減時もうまく回らなかった時があった。他の職員が都合をつけてカバーしている状況。配置数的には問題はないので、人件費などの面を考えても現段階では現状維持かと思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		4	1	現状は肢体不自由児の利用は無くバリアフリー化はされていない。玄関は段差があるが、室内は段差が少ない。	入室退室の際は必ず職員が傍で見守る、支えるなどして危険の無いように支援している。今後、肢体不自由児の利用があれば改善していく必要があるかと思う。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1		何をいつまでにやるかというのを意識して取り組んでいる。半年ごとに半期の振り返りと反省を行い、上司との面談を行っている。	マニュアルはあるので活用していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			保護者の意向を踏まえて活動を考えたり、業務内容や体制を見直すようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	1		ホームページで公開しているが、保護者に伝わっていない面はあるかと思うので情報発信していく予定である。新しく入職した職員が公開していることを知らなかった為、周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	2	今現在を行うことができていないが、過去に事業所で保護者との交流の機会に参加してもらった。	今年度は実際に見てもらっての外部評価はできていない。定期的に管理者が事業所の様子の報告は行ってきた。評価を頂き業務改善につなげるまでは、今後の課題である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			講師派遣型の研修を事業所内で受けている。人員的にも余裕がない中でも研修に参加できている。	新しいシステムを導入し、個人で動画を使った研修も可能になった。意識して自ら学びスキルアップにつなげていくようにする。
適切 な 支 援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			各職員の意見を取り込んで作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		新規児童受け入れ時にアセスメントの情報を把握するようにしている。契約後に必ず利用児や保護者に聴き取りを行い、利用開始前に閲覧し情報を共有している。	新しいシステムの導入により、職員がより統一した基準（考え方）で支援を行っていくようになると思う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	3		活動の提案や利用児の課題について職員会議や朝礼などで話をしている。	チームとしてまでは至っていないので、意識疎通に力を入れていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2		児童それぞれの状況を考えて取り組もうとしている。利用児の興味や季節的なものなどを考慮して考えるようにしている。	固定しがちなので各々の成長が今後必要かと思う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	3		職員会議を行い職員間で決め共有している。職員会議で話し合いを行い個別の支援を考えている。	課題をきめ細やかにまでは至っていない。各々の職員で対応している部分もある。今後チームとして共有していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5				

の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1	4	朝礼で確認を行うなど、必要な話し合いは随時行っている。	役割分担が必要な時は会議を行うようにする。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		5	翌日の朝礼で報告を行っている。自分が支援に入っていない児童の記録は目を通すようにしている。申し送りなどで職員間で情報共有している。	勤務日数や時間の関係などで難しい面もあるが、必ず共有すべき情報は日報に記録として残している。個人差もあるように感じるので、定期的に記録を見ていくなどの心掛けも必要。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		全職員の意見を聞いて見直しの必要性を判断している。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3	2		個人がその都度確認しながら支援を行うようにする。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		主に管理者、児発管が参加している。またその児童の支援に当たる機会が多い職員が参加した会議もある。		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5		保護者と随時連絡を取り合って確認を行っている。必要があれば学校にも連絡を入れている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	未記入 ¹	現在（これまででも）医療的ケア児の受け入れは無い。持病や既往歴等については保護者に尋ね対応できるようにしている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4		事例はほとんどないが必要があった場合は会議等に参加してきている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3		前例はないがこれからはそのようなケースも考えられる為、必要な際は行っていく。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		事例は少ないが助言を求めたことはある。コロナ禍で専門機関との連携が難しい面もあるが、今後も必要がある時には受けていくようにする。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	2	保護者の中には交流を望んでいない方もいる。また、今年度はコロナ感染予防の観点からできなかった。現段階では交流の機会を持つ予定はないが、今後も保護者の方の意向は確認していきたい。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	1			

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		連絡帳でやり取りをし、送迎時に様子を伝えている。また、支援計画の面談の際に家庭での様子を聞くこともできている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	1	ペアレントトレーニング等には至っていないが、事業所内相談や家庭連携支援を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	1		令和2年度はコロナ感染予防の為に保護者会を見送ったが、コロナが落ち着いたら開催予定である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			相談員などとも連携を取り相談しながら対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	3	1		現在も必要な情報は文書配布等で提供しているが、令和3年初めよりインターネット上に情報発信できるページを設けたので、今後活用していく予定である。
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1		子どもそれぞれの理解力に合わせてコミュニケーションに配慮している。保護者とは送迎時に話をするように努めている。	全ての子どもが理解できる方法を使っているかと言われるとそうではないので、コミュニケーションボードなども使っていけたらと考えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		今年度はコロナで出来なかった面もあるが、ゴミ拾い等の活動で少しでも開わりを持とうとはしてきた。	今後もコロナの状況もみながら検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2			今後保護者へ文書などで伝える方法を検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			セルフチェックシートの記入と研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1		支援の中で状況によっては必要があることを支援計画に記載、保護者への説明、同意を得ている。	組織的な決定に至る為に随時意見交換を行っていくと更に良いと思う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3		医師の指示書までは求めているが、契約時にアレルギーの有無については必ず確認している。	現在は該当児がいないが、検査結果が分かるものは求めるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			事例報告書として職員に周知できるように作成している。	